



教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和5年 6月号
児童数396名 文責 澤村幸夫



6月 イマジネーション クリエイティビティ 想像力と創造力

1年生は生活科の学習でアサガオを育てています。2年生はミニトマトです。朝や帰りに様子を観察して水やりをしています。授業の中では、スケッチしたり、様子を言葉で表現したり共有したりしています。種を植えると芽が出て、土と水と太陽のエネルギーをもらい、自分たちの背丈より高くなるまで成長します。やがて花を咲かせ、実を付けて、最後に種にもどります。植物ではありますが、生命の不思議と科学的思考をふくらませていきます。「なぜだろう?」がいっぱいつまっています。

子どもたちにとって、毎日の生活は、「不思議」を見つけ、「知的好奇心」をくすぐられ、夢を生み出す場です。学校の学習も、本来「やらされる」ものではなく「楽しい」「やりたい」ものでありたいです。毎日の小さな積み重ねが「新たな発見」を生み「次なる挑戦」を築きます。



タイトルに「想像力」と書きました。想

像力とは「経験していないことなどを、自分の頭の中に思い描くこと」です。アサガオの観察も「想像力」を育みます。先日のある研修で、子どもたちの想像力が欠如していることが話題にあがりました。世の中が「タイムパフォーマンス」を求めるあまり、早くゴールにつくことや答えだけを知りたがる傾向があることを問題視していました。また、「少しだけでも、相手の気持ちが想像できれば、こんなことにはならなかったのに」という指摘です。今、全国や世界で起こっている悲しい出来事は、この想像力の欠如が要因の1つであると説明されています。想像力を育む工夫が必要です。

一方、「創造力」は「新しいものをつくり出す力」です。「自分で考えて、ゼロからなにかを作り出す力」となります。予測不可能な未来をたくましく生きるには、与えられた指示どおりに行動するのではなく、自分で問題意識をもって試行錯誤しながら価値を生み出すことが求められています。

このように、「想像力」と「創造力」は異なる概念ですが、ふたつの力は密接に関わり合っていると思います。自由な発想による想像力があるからこそ創造力が発揮され、また自分でいろいろなものを創造していくなかで想像力が培われていくのです。子どもたちにとって、想像力と創造力はどちらも欠かせない大切な力です。教職員を含む私たち大人の関わりの中で、子どもたちにこの2つの力を育むために、私たちができることは何でしょうか。



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

明確な答えはありませんが、キーワードで表現すると次のような事柄を思い浮かべました。「道草や回り道」「ごっこ遊びで夢中」「読書をする」「芸術に触れる」「空白の時間をもつ」「物語の世界に浸る」「瞑想をする」「反対の立場に置き換える」「多様性を認める」などです。効果や効率のみを追求せずに、時にはしっかり立ち止まって、あれこれ想像する、新たなものを創造する、そんな生活が大切なのだと思います。

1・2年 和邇公園へ

昨年度、2年生に導いてもらった今年度の2年生は、同じグループの1年生にアドバイスをしながら、お兄さん、お姉さん役を立派に務めました。たいへん良い天気



恵まれて、たくさんの春を探し、さまざまな発見をしました。みんなで食べるお弁当がとてもおいしかったです。

3年 地域探検 東コース

3年生では、和邇地域を東西南北の4つの方面に分け、各方面を徒歩で探検し、気づいたことや特徴をまとめていきます。浜方面には美しい景色が広がり、さまざまなおすすめスポットがありました。今後は、歴史や文化に触れていきます。



4年 ペースランニング

4年生では、ペースランニングに取り組みました。各自の目標を設定し、体力づくりに挑戦しています。



お花 こいのぼり



お花学級では、こいのぼりを制作しました。うろこの表現が繊細で、たいへん工夫されています。

5年 和邇川探検

5年生では、和邇川について調べます。学校の近くの和邇川について、生き物を調べたり、ゴミの量を調べたりします。現地での実体験を伴う学習は、楽しい活動になりました。



6年 租税教室

6年生で、「租税教室」を行いました。身近なところで税金がどのように使われているかなど、税にまつわる話を聞きました。模擬紙幣の1億円を見せてもらい、税について考える良い機会となりました。



大津市陸上記録会



5月23日に、皇子山陸上競技場で開催された陸上記録会に6年生の代表者が参加しました。練習期間を含め、自己の記録更新に向けて一生懸命競技に取り組みました。

新体力テスト

全校で新体力テストに取り組みました。シャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・反復横跳び・50m走・長座体前屈・握力・ソフトボール投げです。今回の結果をもとに各自の課題を見つけ、体力づくりに取り組んでほしいと思います。



お知らせ（保護者や地域の皆様へ）

学校では、子どもたちの自尊感情を高めるために、「校外活動で表彰などを受けた場合に、給食の時間に全校に紹介する伝達表彰の取組」を行いたいと思います。スポ少やクラブチーム、習い事、文化活動、資格などで表彰などを受けた児童がいましたら、団体でも個人でも、また賞の大小は問いませんので、学校までお知らせください。（賞状や証書、トロフィーなどを持ってきてください。）自薦・他薦は問いません。期間は、今年度（令和5年4月以降3月まで）です。和邇小学校の子どもたちの学校外での取組や頑張りを、広く全校児童にお知らせすることで、互いに認め合い、支え合える関係をつくり、また、励みにつながればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

シリーズ ウェルビーイング 子どものWell-being 第2弾 「褒める」→「認める」



学校のナンヨウハギ（ドリー）
本文との関連はありません。

Well-being とは、心身とも満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されます。現在、あらゆる分野で注目を浴びていて、さまざまな調査や研究がなされています。子どもたちが、自分が幸せだと感じると、学びのパフォーマンスが向上し、学級や学校に良い影響をもたらすことになります。当然、学力も向上し、意欲向上とともに生活が安定します。

では、いったいどうすれば、「子ども自身が幸せだと感じるか」ということになりますが、シリーズ第2弾は「褒める」→「認める」です。

今年度の4月に「こども基本法」が施行され、同時に「子ども家庭庁」がスタートしました。国は、全ての子どもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができ

る社会の実現を目指し、「子どもまんなか社会」をみんなで一緒につくっていきけるよう具体的な施策を始めました。

子どもは本来「一人ひとり生まれながらに個性と能力を持ち合わせた力強い学習者であり、一人の人間として尊重される」存在です。大人は子どもの「自分でやってみたい」という自主性を伸ばすために、良き伴走者になりたいものです。こども家庭庁は、当初「こども庁」として議論されていましたが、「子どもの基盤は家庭にある」として「こども家庭庁」になったという経緯があります。しかし、「子育ては親がするの」という印象を強く受けることから、今後の議論が大切になってくると思います。いずれにせよ、何より重視したいのは、子どもを尊重しみんなで育てるという社会全体の意識であると思います。

子どもが幸せを感じ、自尊感情を高めるためには「褒めること」が大事だと良く言われます。しかし、「褒め方」次第では逆効果になることがあります。例えば、テストで100点を取ったとき、もし「すごいね!」「頭いいね!」などと声をかければ、誇らしそうにするかもしれません。ところが、いつもいい点を取れるとは限りませんので、点数が不満足な時は結果を隠したり、うそをついたりするようになる子もいます。「100点=頭がいい」「100点でない=頭がよくない」と感じて自信を失ってしまう場合もあります。次の失敗を恐れて挑戦する意欲が低下することもあります。私たち大人でも仕事で強いプレッシャーを感じると、チャレンジが怖くなる場合があります。また、「褒められること」そのものが目的になってしまうという落とし穴もあります。ダンスを披露した子どもに「上手だね」「天才!」と褒めたとします。子どもは次も褒められたくて「どうしたら褒められるか」と考えるようになります。それが続くと、ダンスそのものの興味が薄れ、褒められないときがあるとダンスを止めてしまう場合もあります。

「褒める」という行為は、他者を「評価する」ことです。子どもからすれば、他ならぬ大好きな親や周囲の大人からの言葉です。影響は絶大だと思います。子どもを「褒める」ことは、意外と難しいことなのです。

解決策は、「褒める」のではなく、「認める」に変えていくことを意識していくことだと思います。褒めようとする、どうしても「評価」になりがちですが、ポジティブな「認める」言葉がけが大事だと思います。子どもが「やったこと」をそのまま認める、特別に褒めなくても、「やったこと」を言葉にするだけで、子どもは「見てもらっている」「認められている」と感じ、チャレンジする意欲が育ちます。また、「結果」ではなく、子ども自身の努力や工夫を認める、さらに、どんな気持ちだったかを子どもに聴いてみる、次はどうしたいかを訊いてみることです。できなかったところは、今後伸びるところだよと伝えてみるのも大事だと思います。良いも悪いもまるごと認める、そんな言葉がけを私たち大人が意識することができれば、子どもたちの自尊感情は高まり、子ども自身が幸せだと感じるのではないのでしょうか。



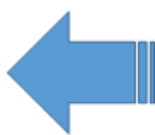
学校のハタタテハゼ
本文との関連はありません。

1年生を迎える会

紙面
配布
のみ
表示



期間限定 6/1~6/30



動画はコチラ

5月の「わにっ子集会」は「1年生を迎える会」でした。児童会の企画で、子どもたちが主体的に運営しています。当日の様子をダイジェスト版で動画にまとめました。左のQRコードより、ご視聴ください。